

平成30年度第2回 さいたま市大宮盆栽美術館運営委員会  
会議録

日時 平成31年3月19日(火)  
午後3時から  
場所 大宮盆栽美術館2階 講座室

【次第】

1 委嘱状交付式

- (1) 開会
- (2) 委嘱状の交付
- (3) 委員の紹介
- (4) 閉会

2 さいたま市大宮盆栽美術館運営委員会

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 議事
  - (ア) 報告事項

平成30年度大宮盆栽美術館事業の実施状況について

【書類番号1】「大宮盆栽美術館事業の実施状況について」

- (イ) 審議事項

平成31年度大宮盆栽美術館事業の実施計画について

【書類資料2】「平成31年度大宮盆栽美術館事業の実施計画について」

【書類番号3】「さいたま国際盆栽アカデミー 初級コース」

「さいたま国際盆栽アカデミー 中級コース」

「さいたま国際盆栽アカデミー 上級コース」

「さいたま国際盆栽アカデミー 実施計画」

「さいたま国際盆栽アカデミー 外国人向けコース」

- (ウ) その他

- (4) 閉会

## 【会議の公開／非公開内容】

公開とすることとする。なお、傍聴人は無し。

### 3 議事

#### (ア) 報告事項

平成30年度大宮盆栽美術館事業の実施状況について

【書類番号1】「大宮盆栽美術館事業の実施状況について」を事務局より報告。

#### 【質疑】

委員：さいたま国際盆栽アカデミー各コースの修了者の活動にはどのようなものがあるか。

事務局：初級コース修了者には中級コース受講資格が与えられ、中級コース修了者には来年度新たに開講する上級コースの受講資格が得られる、ステップアップ方式をとっている。

中級コース修了者には、現在検討中だが、盆栽文化普及サポーターとして美術館と一緒に盆栽文化の普及に携わってもらいたいと考えている。

委員：サポーターは、通える範囲の人が参加しているのか。遠方の方もいるのか。

事務局：初級コース修了者で遠い方だと仙台市、富山県、甲府市の方もいる。遠方に住むアカデミー修了者はサポーターとして活動するのは難しいと考えている。

委員：盆栽のプロになる方はいるのか。

事務局：プロというよりは、盆栽を楽しみたいという人が多い。

委員：初級コースが修了したらこのような役割があってというのを作ってあげた方がもっと普及するのではないか。

委員：追跡調査も必要となってくるのではないか。修了された方がその後どのような活躍をしているか把握しているのか。

事務局：修了した方に「受講してよかった。続けて受講してみたい。」と思ってもらえるような仕組み、仕掛けが必要である。追跡調査は必要と考えている。手探りで進めているところもあり運営委員会にお諮りしながら進めていきたい。

委員：「合格」ではなく、「修了」というものか。

事務局：卒業試験というものはなく、8割以上の受講出席で「修了」という形をとっている。

委員：上級コース修了した後がボランティアで終わりというのはどうなのか。もともとは後継者育成といった視点があったのではないか。

委員：受講した方のアカデミー修了後の役割がボランティアでは、アカデミー修了者が他の人に「アカデミーを受講した方がいいよ」とはならず、結果、盆栽文化普及の発信力、広がり弱くなるのではないか。

事務局：ご指摘いただいた内容は、局内でも課題として認識している。アカデミー修了者と美術館との両輪で盆栽文化を発信していく方法を模索していきたい。

委員：ある協会では、講座を受講し全国で活躍をしている方が1年に1回、発表会をやっている。皆が集まる場を作ってみてはどうか。

委員：講座を受けると、どの程度の腕前になるのか。

事務局：盆栽師として活躍している方は、5～6年修業している。生業として成功するにはアカデミーの期間では全く足りないのは事実である。美術館としては愛好家レベルから美術館として一緒に盆栽文化を発信していく、言わば伝道師的な役割を果たしていくような人材を育てたい。

委員：アカデミー外国人向けコースと日本人向けコースの内容が違うのはなぜか。

事務局：外国人向けコースはステップアップを採用していない。初級コース対象者は海外からの旅行者を想定し、日本での滞在期間が短いこともあり、短時間での盆栽体験メニューを用意した。中級コースの対象者は、母国で盆栽を愛好しているハイレベルな方を想定し、盆栽村の講師にも協力いただき、受講者レベルや滞在期間等も考慮した内容になっている。

委員：大宮盆栽美術館のボランティアは英語でガイドをしたりレベルが高い。アカデミーを修了したからといってボランティアガイドをさせるのは、将来的にうまくいくだろうか。すみ分けをした方がいいのではないか。

委員：アカデミーでは在住外国人向けの他に、旅行で来た方向けの体験コースはないのか。

事務局：外国人向けコースについては来年度から開講する予定である。

委員：世界大会後の特別展は質が高かった。秋季特別展「シリーズ・現代の盆栽家Ⅱ 木村正彦 あそびの領分」展も長年の大宮盆栽美術館と木村氏との信頼関係があつてこそ内容であった。9年間の特別展開催の蓄積、ノウハウが感じられるものであった。

#### (イ) 審議事項

平成31年度大宮盆栽美術館の実施計画について

【書類資料2】「平成31年度大宮盆栽美術館事業の実施計画について」

【書類番号3】「さいたま国際盆栽アカデミー 初級コース」

「さいたま国際盆栽アカデミー 中級コース」

「さいたま国際盆栽アカデミー 上級コース」

「さいたま国際盆栽アカデミー 実施計画」

「さいたま国際盆栽アカデミー 外国人向けコース」

を事務局から説明

委員：姉妹館提携を進めようとしている米国立樹木園はどのような施設か。

事務局：国立樹木園の中に国営の盆栽・盆景園がある。この園は日本のほか、中国や北米の盆栽文化も取り上げて大きく3つのパビリオンに分かれている。学芸員や盆栽の技術者もいる。企画展やイベントも実施していて、ただ単に盆栽を展示するというよりは、ミュージアムとしての意識があるのではないか。

委員：樹木園の中に盆栽・盆景園ができたのは戦後なのか。加藤三郎さんが盆栽を提供したことがきっかけになっているのか。

事務局：昭和51年（1976年）に設立された。加藤氏を中心に日本盆栽協会がアメリ

カ建国200年を記念して寄贈された盆栽をきっかけとして、樹木園の中に盆栽・盆景園が作られた。

委員：来年度、美術館は10周年なので提携できたら人を呼んで記念シンポジウムなどを実施したら良いと思う。盆栽の技術的な面だけでなく、アメリカや中国のそれぞれの盆栽哲学、思想の違いなどをテーマに開催したら面白いのではないかな。

委員：年報に記載の設立経緯の中で、盆栽文化の振興・活躍を目的として、「個性豊かな生活文化活動の推進」、「緑あふれるまちづくり」、「愛着の持てるふるさとづくり」などを掲げている。姉妹館提携がどこに位置づけられているのかずっと考えていた。地元の児童たちに聞いていただくような、まちづくりに関するシンポジウムができれば、盆栽文化の振興につながるのだから非常に素晴らしいと思う。

委員：姉妹館提携は秋季特別展のタイトル「盆栽の国際化」につながってくるのではないかな。タイトルで言っている国際化は、アメリカでの盆栽文化の広がりを言っている。そのタイトルについてだが、要はアメリカにおける国際化である。それをどのように捉えるか。

委員：国際化だと誤解する人もいると思う。まだ仮称なのでこれから検討していくと思うが、文化、アートとかアメリカでどう捉えているかわからないが、もうちょっとキャッチーなタイトルにしてはどうか。

委員：「海を渡る盆栽」、「太平洋を渡った盆栽」とか。ただ「国際化」だと固いのではないかな。

委員：事務局の説明で、戦争と盆栽ということが入っていたが、どういう意味か。

事務局：以前大宮盆栽村の歴史展を開催するときに調べたことがあるが、この盆栽村地域も戦後の国際化に貢献している。大宮盆栽村は、緑豊かな敷地が広く、進駐軍に接収された家もあった。盆栽村の盆栽を見て自国に持ち帰ったり、基地に盆栽の講師を呼び寄せたりしたことが国際化の出発点になっている。

委員：姉妹館提携について、大学では連携協力という協定を結んで、ある程度講義をしてから姉妹館提携になる。実績を少し積み重ねてから姉妹館提携を考えていいのかなという印象をもった。アカデミー外国人向けのカラーのチラシは、なぜ日本語なのか。

事務局：英語表記のチラシも作ってある。資料用として日本語のチラシを配布させていただいている。

委員：来年度後半3月に、さいたま市として国際芸術祭が開催されるが、芸術祭と美術館の事業との関連づけはどうなっているか。

事務局：国際芸術祭について、美術館としてぜひ協力して一緒に盛り上げていきたいと思っている。姉妹館提携することがゴールではなく、両館の交流、それぞれの市民がお互いの文化を知ることが目的としたい。姉妹館提携までにどのような交流ができるか先方と詰めて実のあるものにしていきたい。

委員：在住外国人向け上級コース「盆栽づくりの楽しさと日本文化の魅力を周囲に伝えることができる」とあるが、上級を受けなくても日本の文化を伝えることは可能である。もう少し工夫が必要ではないかな。また、SNSを活用した発信について、どれだけ情報を拡散しているのか、「いいね」の数ではなくシェア数を重視する方向で検討した方がいい。

事務局：今年度の実施状況をもとに内容、価格についてはこれから検討していく。到達目標についても見直していく予定である。シェアについても、数を伸ばす努力をしていきたい。

委員：特別展「現代の盆栽家シリーズⅢ」を非常に楽しみにしている。次回取り上げる盆栽家の印象として、「上品」、「品格」。飾りでは、「麗しさ」、「美しさ」、そういった言葉がふさわしいのではないか。タイトルを「何とかの領分」とかにするならば参考にしてもらいたい。

事務局：「飾り」については、床の間という空間をキャンパスとして捉えている。床の間という空間を利用してそこに飾ることにより、最大限の美を強調して美しさを表現することができる。

盆栽は松だけでなく、日本では四季を通じて、春夏秋冬の喜びをキャンパスの中に完成させていく。その過程が盆栽の楽しみと考えている。飾りの世界は深いものがある。

委員：埼玉県でも、来年度以降外国人向けの体験、盆栽だけではなくいろいろな体験をしてもらい、それらを海外に発信していく。連携していければと思う。

#### (ウ) その他

事務局：来年度の運営委員会の開催時期だが、例年第1回を7月に開催しているものを、9月又は10月に変更したい。その時には、美術館の前年度の事業を評価していただくとともに、次年度の事業計画等をお諮りしたい。

また、個別の専門分野で、職員が直接意見を伺うこともあるかと思うがご協力お願いしたい。